



水位が低かった今年の琵琶湖

昨年は、琵琶湖の水位低下が話題となった年でした。近年は比較的安定していた琵琶湖の水位ですが、昨年は10月から11月にかけて降雨が少なかったため平成19年以来14年ぶりにB.S.L.-60cmを下回る水位となり、琵琶湖の水利用に目を向ける機会となりました。

過去琵琶湖では、平成6年9月15日にB.S.L.-123cmの水位を記録しており、昨年を大きく上回る規模の水位低下が発生しています。この機会に、水資源機構の記録写真の中から、平成6年当時の状況をふり返ってみました。

※B.S.L.は、Biwako Surface Level の略で±0m(T.P.84.371m)が琵琶湖基準水位

琵琶湖の中から浮御堂を見る(大津市)



(平成6年9月)



潮干狩り状態の琵琶湖 写真奥は伊吹山



琵琶湖水位 -8cm

★ 令和4年1月の浮御堂のようす

沖合いまで陸地化



長浜市湖北町 平成6年8月(上3枚とも)

太閤井址(長浜市公園町)



(平成6年9月)

琵琶湖の明日を見つめて

独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所

〒520-0243 滋賀県大津市堅田2丁目1-10
TEL.077-574-0680 FAX.077-574-1739

湖北管理所 〒521-0011 滋賀県米原市中多良1-2
TEL.0749-52-5160

湖西管理所 〒520-1623 滋賀県高島市今津町住吉1-3-4
TEL.0740-22-1500

湖南管理所 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091-58
TEL.077-568-4102

<https://www.water.go.jp/kansai/biwako/>



琵琶湖開発

検索



びわ湖創館
かんちょう

びわ湖 管理情報トピックス

湖岸堤・管理用道路の役割



ビワイチで琵琶湖岸を走行すると、このような看板を見かけます。この看板は、当時の水資源開発公団（現水資源機構）が琵琶湖開発事業（昭和43年～平成4年）において建設した「湖岸堤・管理用道路」の起点と終点に設置しています。

湖岸堤・管理用道路には、

- ①琵琶湖の水位上昇に伴う洪水を防ぐ「堤防」としての役割
- ②地域の皆様が生活道路として利用している2車線道路（県道）や「管理用通路」としての役割

があります。（下図「湖岸堤・管理用道路標準断面図(例)」参照）

管理用通路は、洪水時の水門等操作や日々の施設管理等を円滑かつ迅速に行うためのものです。管理用通路には、水門等操作時はもちろん

日々の施設点検・維持管理時にも**施設管理用車両**や**工事用車両**が**出入り**し、**走行・駐車**することがあります。また、施設管理用車両等の通行の妨げとならないよう、一般車の進入や駐車を防止するために**車止め**や**チェーン**を設置しています。



写真左：管理用通路 右：2車線道路



琵琶湖周辺の湖岸堤・管理用道路

ビワイチで走行される際は、これらをご理解いただくとともに、歩行者に配慮して徐行する、必要に応じて自転車を降りて押すなど、**安全に十分注意しながらサイクリングをお楽しみください。**

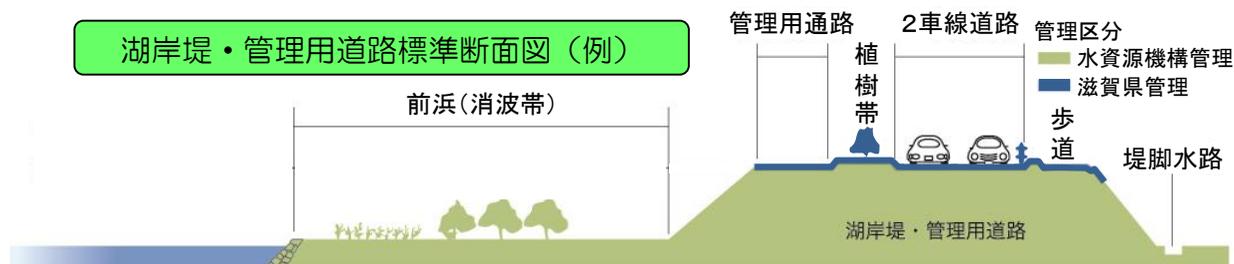


管理用通路には車止め等を設置



管理用通路に出入りする施設管理用車両

湖岸堤・管理用道路標準断面図（例）



湖岸堤・管理用道路は令和4年4月で 管理開始30年になります

